

しんぎょう

真楽寺報

浄土真宗本願寺派（西本願寺）
令和五年六月

蛇蝎奸詐のころにて
自力修善はかなふまじ

如來の回向をたのまでは
無慚無愧にてはてぞせん

（親鸞聖人『悲歎述懷讚』）

「蛇蝎（だかつ）のごとく」といって、誰もが忌み嫌うものとして譬えられる表現です。

私が蛇やサソリを怖がっているかどうかは秘密ですが、蛇やサソリにしては、迷惑な言葉かも知れません。五月中頃のある朝、境内をお掃除していましたが、蛇が一匹仰向けに寝ていました。箒でつついても動きませんでした。箒でつついても動きませんでした。野良猫にやられてもしたのでしようか。蛇の常識は知りませんが、こんな格好で死に様をさらすのはごめんだと、私なら思ふかな等と思ひながら、土手にもどしてやりました。しかし、「してやった」という言い方をする、善い事してるときに聞こえますが、実際は手にしていた箒で落ち葉と一緒に掃きだしたのでした。ゴミあつかい

にしておきながら善い事しているような言い回しをついしてしまふのは、私の根性でしょうか。思着せがましい言い方にそれが現れているように思います。実はそんな心の毒性が蛇やサソリに譬えられ、それを隠しながらの善人らしい姿が、人をだます「奸詐」という言葉で譬えられるのです。

親鸞聖人は、蛇蝎奸詐（じやかつかんさ）のころで善行をおさめることなど出来ないと言いつつ、私たちが凡夫は、い切られました。私たちが凡夫は、どんなに善い行いを重ねて行っても、内面には愚悪を抱えています。人の称讃を期待したり（ほめられたい）、見返りを求めたり（御礼を言ってもらいたい）、優越感を持つたり（誰々には負けない）等々、大なり小なり誰もが持っているそんな心は、人の眼には見えませんが、たとえ見ようとしても薄皮一枚の裏程度の推測しか出来ません。外面の賢さ、善人ぶり、諸々の活動が世間に受け入れられ、その評価が良ければどんどん偉い人にな

なっていくのでしようか。しかし、逆の評価しか得られない時には毒の塊が姿を覗かせます。誰も認めてくれない、こんなしてやっていると裏切られた、自分はこんなに頑張っているのに悪いのは世間だ等々と、善い事したことが怒りや愚痴のたねになり、それが、結構他人の眼にはよく見えるのです。

昔「ソルティシユガー」というフォークグループが、『ハナゲの唄』というコミックソングを歌っていました。「ハナゲのびるる」という歌詞を笑いながら聴いていたものです。しかし、鼻毛は誰の鼻の中にも生えているのにどうしておかしののでしよう。普段鼻の中にかくれているとどうもないのに、それが鼻から覗くと笑われて恥ずかしい思いをします。

見透かされては恥ずかしい思いをする私のいのちの内実ですが、世間から見られていなければ、恥ずかしいと思うことがないし、慎むことも覚えません。無慚愧（恥知らず）のまま生きて、無慚無愧に果てていくしかないのでしょうか。阿弥陀如來の御本願は、私のいのちのありのままを見抜かれて、それ故に凡夫が歩むべきさ

とりへの道を施されたものでした。

それは煩惱一杯に生きる者に、それを断ち切って聖者になれという願ひではなく、諸々の修行を重ねよという働きかけでもありません。賢くなれよ、善人になれよ、勤め励めよ等という要求が一切なされずに、必ず救うという如來の清淨真実が私のいのちに施され続けているのです。それが身心に響けば、その時から凡夫が凡夫のままに仏力を頂いて、さとりの道を歩み始めます。

そこには世間のまなざしには隠し通せた私の有様が照らし出されています。私の姿に本當に気付かされれば、それを「凡夫だから仕方が無い」等というあきらめではなく、恥ずかしい私だからこそ自らを慎み、他を敬うという慚愧の人生が見えてきます。

「ふたつの白法あり、よく衆生をたすく。ひとつには慚、ふたつには愧なり。慚は自ら罪を作らず、愧は他を教へてなすしめず。慚は内に自ら羞恥す、愧は発露して人に向かう。慚は人に羞ず、愧は天に羞す。これを慚愧と名づく。無慚愧は名づけて畜生とす。慚愧あるがゆゑに、すなわちよく父母・師長を恭敬す。」（『涅槃經』より）

◎夏法事について

お釈迦様の時代から続く安居(あんど)という行事があります。インドには長い雨期があり、その間仏弟子たちは精舎(寺院)にこもって修行に専念されたと言います。激しい雨の中では遊行(布教活動)が難しいこともあったでしょうし、歩くことで草木や虫などのいのちを傷つけることがないようにと努められたようです。日本でも各宗派ごとに安居が勤められ、本願寺でも夏の最中に学僧たちが学舎(学舎)をこもって修行に専念されたと言います。一切衆生を救うと立ち上がられた阿彌陀如来のほたらきを間違いないく領解し、それをしっかりと伝えるために行うのが浄土真宗の安居です。

さて、私たちの先達である浄土真宗の御門徒方は、梅雨の最中で、かつ暑さの真っ盛りの中、農作業を一段落させて仏法聴聞のお座にお詣りしてこられました。そのすがたが、仏法を御縁の人に弘めるはたらきもなしていたようです。私のいのちの由来、有るべき姿、そして行く末を如来様に尋ねていくこの御法座が「夏法事」です。

◎真楽寺夏法事

期日 七月一日(土)、二日(日)

時間 午前九時半分、十一時半

会処 真楽寺本堂

※六月三〇日(金)午前九時から、本堂境内の清掃をします。ご都合つかれま

◎真楽寺歡喜会(盂蘭盆会)法要

お浄土に往生された方々は、普く一切の生きとし生けるものを救うという阿彌陀様のようにならざるお慈悲を施されています。お盆は、先だったお方を仏様として礼拝し、讃嘆する御法縁です。

真楽寺の盆の法要をお勤め致します。どうぞご参詣下さい。

日時 八月十六日(水) 午前九時半より 於 真楽寺本堂

◎今年の盆経について

今年の盆経は、昨年と同様の形でお勤めします。八月十三日から十五日はこの一年に御往生なされた方のご家庭に初盆のお勤めに参ります。

初盆以外の方でお詣りをご希望の場合は、八月一日から十二日までの期間でお勤めさせて頂きます。特にご希望があればそれ以外の日でも可能です。七月十六日(日)までに真楽寺(五二一五〇一八)にご連絡下さい。

すでに御依頼の方、また、これから御依頼の方には、葉書でお詣りの日時をお知らせ致します。

◎念仏奉仕団のお知らせ

令和五年度の京都の御本山、西本願寺での念仏奉仕団の旅を実施します。

御本山での清掃奉仕から奈良の斑鳩、吉野、明日香そして大阪通天閣などの観光を予定しています。七年ぶりの念仏奉仕団です。お誘い合わせてご参加下さい。

期日 十月三十日(月) 十一月一日(水)

内容 西本願寺(御本山)念仏奉仕 帰敬式

黄桜・伏水蔵、斑鳩中宮寺 歎異抄著者唯円往生の地 蓮如上人御旧跡・願行寺

明日香巡り、大阪通天閣 申込 真楽寺に用意しています募

集 要項をご覧頂き、八月十六日(日)までにお申し込み下さい。 団費 八万九千円

◎長崎教区平和のつどい

全戦没者追悼法要のお知らせ

毎年八月八日には、本願寺長崎教堂(諫早市)において、全戦没者追悼法要をお勤めしています。今年も、法要お勤めの後の平和のつどいには『沖繩スパイ戦史』という映画の監督をされた三上智恵さんをお招きします。正式に決まりましたら、真楽寺内にお知らせを掲示致します。

◎九月以降の法要

- ◆秋季彼岸会法要 九月二十二日(金)～二十四日(日) 十一月二十五日(土)～二十六日(日)
- ◆秋の法要

毎月の行事案内(二月、八月を除く)

- ◆月例法座 第一日曜日 午前九時半より 第二日曜日 午前九時より
- ◆家族礼拝 第二日曜日 午前九時より
- ◆親鸞聖人御命日法要 十六日 午前九時半より
- ◆門徒会 十六日 午前十時半より
- ◆富の原真楽寺月例法座 第三日曜日 午後二時より

※聞信会休座のお知らせ

第三土曜日のお勤めしていただきました聞信会は当分の間お休み致します。

大村市木場一丁目八五番地二 真楽寺 電話五二一五〇一八

<https://www.shingyouji.com/>